

13.マレーシア

(1) マレーシア人について

マレーシア人のプロフィール

- マレーシアの人口は約2,750万人(2007年)。民族別では、マレー系(ネイティブ 約66%)、中国系(約26%)、インド系(約8%)の大きく3つの民族にて構成される。宗教別では、マレー系のほとんどがイスラム教徒、中国系のほとんどが仏教徒かキリスト教徒(イスラム教徒はごくわずか)、インド系のほとんどがヒンドゥー教徒に該当する。使用言語は、国語(マレー語)、中国語、タミル語、英語である。



(出典：外務省ホームページ)

訪日マレーシア人旅行者の特徴

- 日本を訪れるマレーシア人旅行者は約10万1,000人(2007年)、平均10.0日間滞在する(2006年)。男性と女性が約6:4の割合で、性年齢別では男性30代(約20%)、男性20代(約13%)、男性40代(約13%)の順に多い(2006年)。

訪日マレーシア人旅行者に人気の観光地

- 東京(TDR、お台場含む)、大阪、京都など。

訪日インドネシア人旅行者が日本で好きなもの

- TDR、日本の伝統文化、日本のお土産(扇、美しいデザインの箸など)などに高い関心を示している。
- 日本に対して「清潔」「きれい」「公共交通の便がよい」という印象を持っている。

(2) マレーシア人の食習慣

食に対する意識

- イスラム教国ではあるが、中国系やインド系の民族が暮らす多民族国家でもあり、それぞれの食文化や食の好みは尊重されている。そのため、イスラム教徒以外の人国内で自由に食べたいものを食べることができる。

- 異なる食生活の民族（マレー系、中国系、インド系）が身近に存在する環境にあるため、食文化を含めて、他人の文化を尊重するという意識が確立している（国民全体が同じものを食べるという意識は全くない）。

日常の食事パターン例

- マレーシア人の食事回数は1日3食（昼食もしくは夕食がメイン）。

食 事	内 容
朝 食 ^{注1}	伝統的な食事 ^{注2} ナシレマ ^{注3} 、焼きそば、ロティチャナイ ^{注4} 現代的な食事 ^{注2} パンとジャム（もしくはバター）、あるいはシリアル。
昼 食	マレー系、インド系 主食は、ナシ（お米）。 副菜は、様々な種類のカレー、焼き魚、鶏肉料理。 ココナツとスパイスが多用される。 中国系 主食は、ごはん。汁麺を好んで食べる人が多い。
夕 食	昼食と同じ内容。
注1) 朝食内容は、マレー系、中国系、インド系のすべてに共通する。 注2) 伝統的な食事を取るか現代的な食事を取るかは、個々の家庭によって異なる。 注3) ココナツライスに、カレー（牛肉や鶏肉のもの）、野菜の和え物、サンバル（トウガラシの辛いペースト）などを載せて食べるもの。 注4) 小麦粉を原材料とするピザのようなもの。インドではパラタと呼ばれる。	

- 外食は、単身者や都会に働きに出ている若者の間で多く取られる。通常は家族と一緒に食事を取ることが多い。
- 人によっては、午前中にお茶休憩を取ることもある。その際には、コーヒーや紅茶、軽なおつまみ（小さなケーキ1~2かけら）が取られる。

マレーシア料理の特徴

- 主食は、ナシ（お米）である。
- マレーシアを代表する料理は、サティ（牛肉や鶏肉などの焼き串）、フライドライス、チキンライス、ナレシマ、焼きそばである。サンバル（チリソース）がよく使われる。
- 代表的な飲物は、テータリ（ミルクティ）である。通常、食事中は冷たい水を飲み（白湯を好む人もいる）、食後にはコーヒーを飲む。コーヒーや紅茶はとても甘い。

食に対する禁止事項と嫌悪感

- ・ イスラム教徒は、宗教上の適切な処理が施されていない肉、豚肉、アルコールが禁止されている（宗教上の適切な処理が施されていない肉は食べる人もいるが、大半は食べない）。またイスラム暦9月には断食が行われる。
- ・ 厳格なヒンドゥー教徒は、牛肉が禁止されている。また、ヒンドゥー教徒にはベジタリアンが多く、肉類を一切食べず、野菜しか食べない人もいる。
- ・ 生魚を食べる習慣はない。生魚を一度食べて嫌いになる人もいる。

テーブルマナー

- ・ マレー系とインド系は、右手、スプーンとフォークを使い分けて食べる。
- ・ 中国系は、お箸、スプーンとフォークを使い分けて食べる。
- ・ 手を使って食べる場合と給仕する場合は右手を使い、左手を使ってはならない。
- ・ 目上の人と同席する場合、敬いながら食事を取る（席の序列に気を配る、年長者から先に食事に手を付けるなど）。
- ・ チップの習慣はない。

日本の食事で好まれるもの

< 食事内容 >

- ・ 魚介類全般が好まれる（エビやカニも食べられる）。
- ・ 天ぷらが好きな人が多く、天ぷらそばも人気がある。
- ・ 最近は寿司、刺身、そばに挑戦する人も増えてきている。

日本の食事で嫌われるもの

< 食事内容 >

- ・ 焼きそばなどの肉を扱う料理は、豚肉や牛肉が混入している不安があるため、嫌われる。
- ・ 生ものが食べられない人も多い。

マレーシア人に対して良いおもてなしをするための推奨事項

< 食事内容 >

- ・ 人によって宗教上の食の禁止事項が存在することがあるため、相手の食べられないものを事前に把握しておくことが望ましい。ベジタリアン以外であれば、鶏肉とマトンは食べられると考えてよい。
- ・ 血液を不浄なものとして忌避することがあるため、肉類や魚の焼き具合と調理方法には気をつける方がよい。
- ・ 食事中の飲物には、好みに応じて、冷たい水もしくは白湯を出すことよい。また食後にコーヒーを提供すると喜ぶ。

<サービス>

- ・ 大きくマレー系、中国系、インド系に分かれるため、それぞれの特性を理解したうえで、食べられない食材について必ず確認する。個別の対応を取ると喜ばれる。
- ・ 箸を使うことに慣れていない人に、スプーンとフォークを用意するとよい。
- ・ 自分で好みの味付けができるように、チリソース、チリパウダー、黒胡椒を使えるようにすると喜ばれる。
- ・ イスラム教徒は1日5回の礼拝を行うため、礼拝の場所と時間について配慮するとよい。

<情報提供>

- ・ 料理の食材が明確でないと安心して食べることができないため、オーダーを受ける際には、料理に含まれる食材・含まれない食材（豚肉、牛肉など）について説明するとよい。

<その他>

- ・ イスラム教の断食月の期間には、イスラム教徒の前で飲食を取ることは避ける方がよい（イスラム教徒は日中、水を含めて一切の食事を食べないため、配慮が必要である）。同様に、断食月の期間にイスラム教徒を相手にしたスケジュールを立てる場合、日中の運動やハードスケジュールは避ける方がよい。ただし、イスラム教徒はその日の断食を終えた後（日没後）にたくさんの食事を食べるため、サービスする側は多くの食事を提供するとよい。

食事以外の禁止事項

- ・ 人と挨拶する際に、相手が同性の場合は、軽い会釈もしくは握手をする（抱き合って挨拶をするのは非常に親しい間柄に限定される）。相手が異性の場合、相手が握手を求めてこない限り、身体的な接触は避ける。
- ・ イスラム教及びヒンドゥー教では、頭は神聖なものだと考えられており、人の頭（子供の頭も）を触らない。
- ・ イスラム教では、左手を使うことは避けられる。
- ・ 人及び方向を指さす場合、人差し指を突き立てない（通常、右手を握り、親指を伸ばして指し示す）。
- ・ 人に足を向けてはならない。目上の人の前では足も組まない方がよい。
- ・ 第三者の前で相手の自尊心を傷つけるような言動（叱りつけるなど）は避けなければならない。また、自分の怒りや苛立ちを人前で表現することも避けなければならない。
- ・ 露出の多い服装ははしたないと思われるため、避ける方がよい。
- ・ 他人の家に入る際は靴を脱ぐ。

(3) マレーシアに関する情報の問い合わせ先

- ・ マレーシア大使館
〒150-0036 渋谷区南平台町 20-16
TEL : 03-3476-3840

- ・ マレーシア政府観光局 東京支局
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-6-4 千代田ビル 5 階
TEL : 03-3501-8691、FAX : 03-3501-8692
website : <http://www.tourismmalaysia.or.jp/>
営業時間 : 9:00 ~ 17:00
定休日 : 土・日・祝

- ・ マレーシア政府観光局 大阪支局
〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-2 コットンニッセイビル 10 階
TEL : 06-6444-1220、FAX : 06-6444-1380
website : <http://www.tourismmalaysia.or.jp/>
営業時間 : 9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00
定休日 : 土・日・祝